

自著と
その周辺

Chronic Obstructive Pulmonary Disease A Systemic Inflammatory Disease

Editors : Hiroyuki Nakamura and Kazutetsu Aoshiba

Springer
352頁
2017年発行
定価 : 19,271円

本書は代表的な呼吸器疾患である COPD（慢性閉塞性肺疾患）の基礎的な英文テキストです。東京医科大学茨城医療センター 呼吸器内科 中村博幸先生、青柴和徹先生の編集のもと、COPD 全般についての知識を世界的に広めるために、各チャプター毎に執筆者を代えて編集されました。当科からは私と信州大学学術研究院医学系医学部内科学第一教室 花岡正幸が執筆者として関わりましたので、紹介いたします。

本書の内容は、COPD の 1 定義, 2 疫学, 3 遺伝的素因, 4-6 病因, 7 併存疾患（肺疾患以外も含む）, 8 バイオマーカー, 9 運動療法, 10 栄養療法, 11 在宅酸素療法, 12-14 薬物療法, 15 疾患の増悪, 16-18 併存疾患（気管支喘息, 肺線維症, 肺癌）から成り立っています。

COPD というと、最近では笑点の司会をされていた桂歌丸さんがこの疾患によって亡くなったことで、認知されるようになってきましたが、その定義は呼吸生理に基づいているため、一般には認識の難しい疾患であります。しかし、2017年のデータでは、COPD は日本人の死亡原因の 8 位であり、18,000人以上が亡くなりました。1995年以降、その数は上昇し続けており、決して無視できない疾患なのです。

本書は、COPD の定義から発症メカニズム、治療、COPD に合併する疾患まで網羅的に解説されています。

我々が携わったのは、COPD の病因に関わる Chapter 4. “Pathogenesis of COPD (Persistence of Airway Inflammation) : Why Does Airway Inflammation Persist After Cessation of Smoking?” (COPD の病因 (気道炎症の残存) : なぜ禁煙しても気道炎症は残るのか?) でした。

そもそもどうして喫煙すると COPD になるのでしょうか? そこにはタバコ煙に反応する好中球をはじめとする白血球の免疫反応が関わってきます。白血球より放出されるケモカインや、加水分解酵素の働きにより肺は崩壊していきます。ケモカインは禁煙しても残存するため、喫煙をやめても肺の崩壊は止まるわけではないのです。また、こういった分子生物レベルの働きに注目すると、どうして冬期に COPD が増悪する患者さんが増えるのかがわかります。

喫煙は依存性のある生活習慣ですから、なかなかやめられない患者さんが多いものです。しかし、禁煙してからも COPD が進行してしまうことを考えると、早めに禁煙した方が良い（吸わないのが一番いい）です。COPD を引き起こすメカニズムがわかっているならば、冬期に風邪を引くことが COPD を悪化させてしまうということの説明がつかます。

喫煙をやめられない患者さんには、「いつか止めれば大丈夫」と思っている方が多いのに驚かされます。しかし、医師のほうも、「タバコは体に良くない。なぜなら、COPD や肺癌になってしまうから。」という程度の説明しかできないと、患者さんからは、「いつかやめるからほっといて」という反論に遭います。

より説得力のある説明ができるよう、本書は内科医師をはじめ、臨床に当たる方に広く読んでいただければと願います。

(伊那中央病院呼吸器内科 加藤あかね, 信州大学学術研究院医学系医学部内科学第一教室 花岡正幸)

